

科目名	保育の計画と評価		担当教員	松本 信吾	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果					
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	保育現場の経験を活かし、子ども理解の実際や環境構成・援助の在り方などについて具体的に示していく。				
到達目標及びテーマ	本講義は、幼児教育・保育における計画や評価に関する基本的な考え方及び知識、技術・技能を習得することを狙いとしている。具体的には、実際の保育現場で使われている指導計画の理念や構造、実際に学ぶことにより、計画を立て、実践して、評価・省察し、次の保育に生かすというサイクルを具体的に理解することを目標とする。				
授業の概要	具体的事例を通して乳幼児の世界の奥深さ、豊かさを知ると共に、「保育」という営みの独自性についての理解を深める。その上で、具体的な事例を通して、乳幼児期の計画と評価の実際を学び、自らの手で立案できるようにする。講義形式だけではなく、ディスカッションやワークを通して主体的で対話的な学びを実現していく。				

授業計画	
第1回	「保育所保育指針」等における保育の目標と計画の考え方
第2回	保育におけるカリキュラムとは
第3回	子ども理解に基づくPDCAサイクルの循環
第4回	全体的な計画とは
第5回	長期的な指導計画の作成（0・1・2歳児）
第6回	長期的な指導計画の作成（3歳以上児）
第7回	短期的な指導計画の作成（0・1・2歳児）
第8回	短期的な指導計画の作成（3歳以上児）
第9回	指導計画作成上の留意事項（0・1・2歳児）
第10回	指導計画作成上の留意事項（3歳以上児）
第11回	指導計画作成上の留意事項（異年齢）
第12回	指導計画に基づく保育の柔軟な展開
第13回	保育の記録と省察
第14回	保育の評価と改善
第15回	生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録

事前学修		次回学修するキーワードを授業の最後に示す。それをもとに、自分なりの考えを描いたり、関連する概念を調べたりする。
事後学修		教科書のワークを行ったり、学修した内容を自身の経験や学びと関連づけて文字化する。
フィードバックの方法	授業の冒頭で毎回、それまでの授業内容についての復習を行って発言してもらい、知識の確認と定着を図る。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	30%	保育における計画や評価について、既修の内容を活用し自分なりの論を展開することが出来るか評価を行う。
上記以外の試験・平常点評価	70%	補足事項に記入
定期試験	0%	実施しない

補足事項	保育計画及び評価の構想力、実践力、活用力 40% 演習やグループワークにおける意欲・関心・態度 30%
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開	文部科学省	チャイルド本社	978-4805402993	なし
保育所保育指針解説	厚生労働省	フレーベル館	978-4577814482	なし
参考資料	随時資料を配付			